

社会福祉法人 歩む会福祉会

2021年度 事業報告書

2022年3月31日

1. 法人概要

(1) 各事業所の運営

- ・あゆみ作業所（生活介護・日中一時支援）
所在地 深谷市柏合804-1
- ・ねぎぼうず作業所（生活介護）
所在地 深谷市榛沢新田6-1
- ・山ばと作業所（生活介護）
所在地 本庄市栗崎147-3
- ・スワン深谷（就労継続支援B型・日中一時支援）
所在地 深谷市宿根524-1
- ・歩む会美里ホーム（共同生活援助・短期入所）
所在地 美里ホーム 深谷市針ヶ谷1054-3
針ヶ谷ホーム 深谷市針ヶ谷767-2
- ・大きな樹（放課後等デイサービス）
所在地 本庄市栗崎660-1
- ・あゆみ相談支援センター（特定相談支援）
所在地 深谷市柏合804-1（あゆみ作業所内）

(2) 役員等の構成

評議員	理事	監事
7名	6名	2名

(3) 評議員会開催状況

開催日	報告・審議内容
第66回 2021年 6月29日	2020年度事業報告及び決算の承認について 役員を選出について
第67回 2021年12月17日	2021年度第1次補正予算の承認の件
第68回 2022年 3月28日	2021年度第2次補正予算の件 2022年度事業計画及び収支予算書の件

(4) 理事会開催状況

開催日	報告・審議内容
第122回 2021年 6月11日	理事長の職務執行状況の報告 新評議員選任・解任委員会の委員の選任について 2020年度事業報告及び決算の承認について 施設整備積立金の積立て承認について 定時評議員会の招集について 新役員を選任候補者の選定について 評議員選任・解任委員会の招集について 新評議員の選任候補者の選定について 就業規則の変更について 経理規程の変更について
第123回 2021年 6月29日	理事長の選定について 公印管理者の選任について
第124回 2021年 9月27日	就業規則の変更について あゆみ作業所、新型コロナウイルス発生時状況報告
第125回 2021年12月 3日	2021年度第1次補正予算の承認の件 虐待防止委員会の設置について あゆみ作業所 はたけ班の活動場所の確保について 評議員会の招集の件 2021年度、各事業所より、事業計画及び仲間の支援方針の報告
第126回 2022年 1月13日	あゆみ相談支援センターの運営について あゆみ作業所はたけ班の活動場所の確保について
第127回 2022年 3月17日	理事長の業務執行状況の報告 2021年度第2次補正予算書の件 2022年度事業計画及び収支予算書の件 就業規則の変更について 定年となった職員の雇用の延長について 評議員会の招集の件

(5) 職員配置状況・人事異動状況

2022年3月31日

	あゆみ作業所	ねぎぼうず作業所	山ばと作業所
職員数	24	13	8
採用者	4	0	1
退職者	6	1	1
	スワン深谷	歩む会美里ホーム	大きな樹
職員数	8	15	8
採用者	0	4	0
退職者	0	0	1

(6) 各事業所利用者状況

2022年3月31日

	あゆみ作業所	ねぎぼうず 作業所	山ばと作業所	スワン深谷	
定員	35	20	20	20	
利用者数	35	18	14	13	
入所者	0	0	1	1	
退所者	4	2	0	2	
	歩む会美里ホーム			大きな樹	あゆみ 相談支援センター
	美里	針ヶ谷	短期入所		
定員	9	9	3	15	-
利用者数	9	9	1 延べ利用(44)	17	34 延べ利用(87)
入所者	0	0	0	3	0
退所者	0	0	0	0	0

2. 今年度の特色

新型コロナウイルス感染症により、様々な行動が制限される中、あゆみ作業所で8月と1月に職員1名ずつ発生するが、仲間・職員へ感染をさせることはなかった。閉所したことで通常のサービス提供ができない状況下であったが、在宅支援に切り替え仲間の体調等と行動の確認、心配事の相談を行った。また大きな樹でも感染者が発生したことで臨時閉所した。

報酬改定によって収入減が予想されるなか、急務としていた定員に満たない事業所の利用者増については、今年度2名増員することができた。また重点課題としていた大きな樹

との連携が身を結び、2022年度にあたっては2名の卒業生を入所に繋げることができた。

新型コロナウイルス感染症の影響で規制が余儀なくされた状況下で、行事やバザーの中止や授産活動(生産活動)の縮小と活動が制限された。各事業所でも行事が中止になり、代わりに施設内で、お祭りやイベントを自主的に企画することで、仲間の楽しみづくり(余暇活動)の充実を図った。

あゆみ相談支援センターでは、有資格者が退職のため継続維持が困難となる。理事会でも存続と休廃止の意見が交わされ休止することとなった。

仲間の高齢化と重度化については、事業所ごとに課題を取り上げ、積極的に研修等に参加し、専門的な知識向上に努めた。

新卒学生の採用では、Webを活用した採用活動を行うが新卒者の採用に結び付けることができなかった。

事業継続計画(BCP)については、「新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画」のマニュアルを作成する。法人でも閉所となる事例が3例あった。事業継続が図れるようマニュアルを下に業務を行った。運用にあたっては今後も検証し、より実効性のあるものになるよう取り組んでいく。引き続き災害時等のBCP整備に向け、段階的に取り組んで行く。また2022年度の設置義務とされた、虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会の設置に向け、指針を作成し2022年度、業務が円滑に進められるよう準備した。

(1) 経営について

事業計画、中期ビジョンの策定については、管理者及び人事担当者等を対象に埼玉県社会福祉協議会が主催した「人事管理者研修」に参加し知識向上に努めた。また労務管理や人材育成を目的とする「人事考課制度研修」にも参加した。新たに就業規則の改定に向け、プロジェクトチームを立ち上げ準備をすすめ、次年度の活用に向け取り組んでいる。

定員に満たない事業所で新規利用者を2名迎えることができたが、作業所の退所者が6名に及んだことで利用率は前年度比で大幅に下がり、収入に大きく影響した。大きな樹では、3名の新規利用児童を迎えることができ、定員を上回る在籍人数となったが、感染症関連で、利用の自粛等があり利用率は伸びなかった。美里ホームは全日開所を達成したが、休日等の利用が思いのほか上がらず、利用率は伸び悩んだ。

施設整備に向けては、施設整備等積立として2000万円を計上した。公的補助等の研究については取り組むことができなかった。今後の整備については、事業所ごとに議論がされているが、具体化するための意見の集約までは行うことができなかった。計画の立案(ビジョンの策定)については、利用者、家族の意見の集約や理事会でも論議していく必要があると考える。

人事制度については、考課制度の必要性について議論を始めた。法人内の研修では、階級別(キャリアパスに基づいて)を意識した研修を実施した。考課制度の導入については評価基準(目標づくり)の策定が課題となっており、引き続き検討していく。

(2) 運営について

今年度も新型コロナウイルス感染症予防に留意しながら事業運営を行った。

暮らしの場の整備については、具体的な検討まで進めることができなかった。自立度の高い仲間の生活については、仲間のニーズを集約するため家族を含めヒアリングを行った。家族との関係だけで仲間の生活を支えているケースが未だある状況下で、事業所だけではなく計画相談事業所や社会資源の活用など、仲間の人生設計を一緒に考えていける体制づくりが今後の課題となった。

改正高年齢雇用安定法の70歳までの就業機会の確保については、定年後の継続雇用が理事会で承認されるという方法でなされている。理事会でも継続雇用については、年齢の上限など基準づくりが必要と意見があがっており今後の課題となった。

通信技術の活用(ICT)については、新型コロナウイルス感染症(蔓延予防)のため多人数と思われる会議はオンラインツールを積極的に活用して開催した。また業務軽減策として個別支援計画やケース記録等が、紐づけられるシステム化の導入について検討を行い、あゆみ作業所で運用テストを行った。

事故防止やヒヤリハットについては、事業所ごとに検討する機会を設けており引き続き意識向上に努め取り組んでいく。

メンタルヘルス対策では、新型コロナウイルス感染症で閉所した際に不安や心配が懸念される状況下で気持ちの安定が図れるよう相談体制を整え取り組んだ。

(3) 人事について

歩む会美里ホームでは、職員体制が整った事により365日開所(全日開所)に結び付けることができた。職員募集については、職員体制や状況を考慮し行ったが、思った通りの求人活動を行うことができなかった。

新卒学生の採用についてはWebを活用し行った。今年度、新卒学生の採用には至らなかったが、学生からの問い合わせや説明会・面接と、これまでにない採用活動を展開することができた。採用活動にあたっては、Web等を使った取り組みが必須であり、引き続き新卒学生の採用に結び付けられるよう進めて行く。

年功序列によらない新たな人事制度について検討するが、具体的な方針を進めることができなかった。管理職・人事担当等を中心に人事管理研修や労務管理、事業経営についての研修に参加することで知識向上に努めた。

人事異動では、あゆみ作業所と大きな樹で職員異動を行った。今後も計画的に取り組み職員の育成に努めていく。

(4) 研修について

職員のキャリアに基づいて新しい研修体制で始めた。研修では、メンバーの経験や知識に応じて専門性の向上を目指し取り組んだ。各研修に担当者を設け、メンバーは希望の研修に参加できるように配慮した。新しい取り組みとして、働く支援員のためのオンライン研修「サポートカレッジ」という研修動画を取り入れ、体系的に学べた。

1年を振り返り、知識向上には取り組めたが、課題解決力、モチベーションの向上までには至らなかった。外部研修は、コロナ禍ということもあり、会場での研修が少なかった

が、Web研修に多く参加することができた。法人施設間の人事交流(現場研修)については、今年度の実施は見送った。また、虐待防止の取り組みを進める目的として虐待防止セルフチェックや、全職員を対象とした虐待防止研修を開催した。

(5)支援について

新型コロナウイルス感染症対策をしながら支援を行った。お祭りやバザーの開催は、活動自粛や規制がある状況下で、殆どの行事も中止となったが、代わりに施設内で、お祭りやイベントを自主的に開催することで、楽しみの充実を図った。授産活動(生産活動)については、「コロナに負けずに頑張ります」などの定期販売や様々な活動の努力により減収が予想された事業所ともに売上げ増となった。

仲間にとって自己表現の場として取り組んでいたアート作品を商品化し販売を行ったり、作品展に出品したりと、作品を通して社会と仲間が繋がる取り組みを行った。

スワン深谷では、生産活動の売上げが前年度比より増収となったが、コロナ前の水準には戻らず仲間の工賃Upはできなかったが、工賃支払は減額せず支給することができた。スキルUpについては、職員が主に取り組んでいた成型作業に積極的に関わってもらう。仲間たちも技術向上だけではなく任されている責任感を感じとり意欲向上に繋がった。

大きな樹では、新型コロナウイルス感染症で活動が制限される中、小集団で活動に取り組んだ。活動では、児童父母からの意見も参考に、園庭で外遊びができるよう、水遊びや砂遊びができるスペースを設けるなど活動の充実を図った。また児童が役割をもって関わられるよう、児童同士のやり取りを増やすことで、横の繋がりをづくりだす支援を行った。

歩む会美里ホームでは、新型コロナウイルス感染症により、集団行動が規制された状況下であったが、生活の楽しみづくりとして、各ホーム内で誕生日会や昼食づくり、短時間の外出など余暇活動の充実を図った。加齢による身体機能が低下してきている仲間に対しては、訪問リハビリや訪問相談等を活用し体力維持に努めた。また、深谷市のコロナワクチン予防接種の際、入居者を対象にホームの方で対応し行った。

3. 各事業所の事業報告

(1) あゆみ作業所

8月に職員1名が新型コロナウイルスに感染したため、事業所を2週間閉所した。1月にも職員1名が感染し事業所を4日間閉所した。その間の仲間の支援は在宅支援に切り替え、介護給付費の算定を可能にした。

しかし、今年度は4名の退所者があったため在籍は35名となり、定員(35名)に対する平均利用率は84.5%(前年度比6.7ポイント減)で、自立支援給付費の減収は避けられなかった。家庭での介護が困難となり施設入所支援を利用するケースが特徴的で、仲間や家族にとって望ましい生活を模索しなければならない課題が続いている。

新型コロナウイルスの感染の拡大が続くなか、オンライン研修に積極的に参加し、職員の専門性や人権擁護の意識の向上に努めた。新人の看護師は知的障害・発達障害の看護に

必要な専門的知識の習得に努め、支援員は発障協の新任職員研修会や中堅職員研修会をはじめ、強度行動障害支援者養成研修や自閉スペクトラム症専門研修等に参加し、専門性の向上に努めた。また、苦情担当者は利用者からの苦情に適切に対応できるように、福祉サービス苦情解決セミナーに参加した。恒例の虐待防止セルフチェックは11月に実施し、虐待防止研修と合わせて人権擁護の意識向上に努めた。

事故防止については、事故の根本原因に迫る職員の力量に課題が残っており、未然に事故を防ぐ体制づくりには至らなかった。

仲間から切望されていた和式トイレの洋式化は、ようやく実現できた。

仲間の支援では、労働を活動の中心に据えるといった理念からすれば、一人ひとりの仲間の抱える課題に合った作業を提供しなければならないところであるが、「仲間ができる（やりたい）作業がない」といった課題に手をこまねいてしまった。本来であれば各人の課題（障害や健康の程度や様相、望む生活、なりたい自分等）に着目した「個別」の支援が提供されるべきところ、それが忘失され日々の業務そのものを目的と感じてしまっているのかもしれない。日常の業務の積み重ねを通してその先にある「仲間の生活を守り、社会参加につなげる」といった認識が希薄になっていることは否めず、来年度の作業班の在り方と支援のゴールを見誤らないようにしなければならない。

ボーナスの取り組みやイベントの企画では、仲間の会が主体になることは定着してきた。しかし、例えば企画に対する評価を行ったり、目標達成祝賀会を催して達成感を共有したりする等、仲間が受動的にならずに自発的に取り組めるような支援には至らず、次年度の課題となってしまった。

仲間の表現活動については、アート活動を作業として位置づけて絵画作品をデザインしたグッズを制作することができた。工賃を発生させるには至らなかったが、アート活動が作業として位置付けられた一歩となったことは評価できる。個人別には、きょうされんグッズデザインコンクールに入賞するといった成果はあったが、今後、仲間の作品をどのように広く知ってもらおうのかについては注力していかなければならない。

（2）ねぎぼうず作業所

6月には施設入所、8月には他施設利用のため2名の退所者があった。定員割れを解消しようと、相談支援センターや運営委員会、職員に入所に結び付く仲間の紹介依頼の呼びかけ等を行ってきたが、利用者増には至らなかった。また特別支援学校からの実習依頼のない1年であった。9月からの利用者は18名となり、仲間達の年間利用率は86.5%となった。

強度行動障害支援者研修や感染症について知識と理解を深め、正しく恐れるための研修、また深谷市障害者(児)等福祉実務者連絡会の実践研修のオンライン研修に参加、また講師を招き摂食嚥下について学習会を行ってきた。11月には障害者虐待防止研修に参加し、専門性の向上に繋がるよう努めてきた。

職員会議時に1ヶ月間のヒヤリハット事例を出し合ってきた。仲間達の移動始めや、散歩時、また仲間同士で接触して転倒しそうになる等、加齢に関する事例が多くなってきている。職員間で見守りの強化と安全な環境づくりに注意していく事を、共有し合い事故防止につながる様に取り組んできた。

運営委員会と交流の場となっている行事は、コロナ感染まん延防止期間中と重なり中止となったが、感染対策を実施して会議は開催することができた。仲間達の様子や作業所の様子を知り、参加した家族の情報交換の場にもなっていた。昨今、人と会う機会が少なくなっている中で、作業所に足を運ぶことが出来て何よりという声も頂けた。

今年も地元の小学校からの社会科見学はコロナ感染予防のため、実施されなかった。ボランティアの受け入れは感染予防を実施し、絵画ボランティアの方に、週1回お世話になることが出来た。専門的な指導で、仲間達の絵画の広がりが出てきている

仲間の健康面では、給食について専門家のアドバイスに沿って改善してきた。スプーンの大きさを一回り小さいものに変え、食材をそのスプーンにのる大きさにカットしてもらう。嚥下機能が低下してきているので、使用は避けた方が良い食材をピックアップして頂き、提供を行ってきた。食べる前には、あいうべ体操を取り組み、むせ込む機会は格段に減ってきている。

筋力低下を防ぐ体操では、リハビリの専門家に教えて頂いた体操パネルを用意し、朝の会時に体操を実施している。継続して取り組み、仲間達の健康を守っている。

仲間の役員会を定期的に取り組み、イベントについての取り組み方法や会費の集金チェックも行い、役員としての意識づけを行ってきた。積極性が出てきて自信に繋がり、次年度への役員立候補の意欲も出てくるようになっていった。

また余暇の時間を利用して散歩に出かけた際、月1回程ではあるが近隣道路のごみ拾いも取り組んできた。

作業所内のイベントも職員の創意工夫により、外出できない仲間のストレスを少しでも解消できるようにと、楽しく過ごせる環境を準備し、みんなで参加することができた。

仲間も支える家族も高齢化を迎え、生活環境の変化が大きくなる中、グループホームの利用回数を増やしたり、新たに短期入所先を探すなど環境変化に対応できるよう相談支援事業所とも協議しながら進めてきているが、継続課題となる。

(3) 山ばと作業所

大きな樹の隣接地に移転して2年目になり、大きな樹との連携を進めている。職員や家族のコロナ感染はあったが、事業所を閉所することはなかった。

今年度は5月に新たに1名の入所者を迎えることができ、在籍は14名となった。しかし、新たな入所者が週3日の利用にとどまっていることや仲間1名が11月頃から登所が困難になっていることから、在籍数に対する平均利用率は90.4%（前年度比6.1ポイント減）となっている。今年の入所者や登所困難な仲間に対して、相談支援事業所や家族とも協力して支援を続けている。本庄特別支援学校から2名の生徒を春と秋に受け入れ、その内、高等部3年生（1名）は、大きな樹を利用しており、来年度山ばと作業所への入所が決定している。しかし、まだ定員に対して空きがあり、実習等を積極的に受け入れて利用者を増やしていかなければならない。

仲間の支援では、個々人に合った活動の提供の必要性が求められてきていたものの深めることができなかった。仲間が増えるに伴い、仲間にあった活動の提供が重要な課題になっている。職員の専門性の向上や職員間の密な連携がこれまで以上に求められている。

研修では職員の専門性を深めるオンライン研修に参加した。また、虐待防止セルフチェックは3月に行い、虐待防止研修の参加と合わせて人権意識の向上に努めた。

作業場面では仲間の希望により、外班の仲間が中班に参加したり、その逆もあるなど班を越えた仲間の交流があった。畑作業は、育てたい野菜を仲間たちと相談しながら行ってきた。水やりや草取りをしながら作物の成長を確認して、収穫を楽しむことができた。

仲間の会は、ゆったりした時間の中で、仲間が自分を主張できる場となっていて、日常でも仲間が自分の思いを伝えられるようになってきている。

作業所周辺の川沿いや大久保山やマリーゴールドの丘などを季節を感じながら散歩することができた。公園等へ出かけて楽しむことも行った。

動画に合わせて、ストレッチや体操、ダンスを行った。特にダンスは人気で、楽しみながら体を動かしていた。健康面での課題への取り組みは進めることはできなかったが、楽しみながら体を動かすことができたのは新たな取り組みとして今後も続けていきたい。

新型コロナウイルスの感染の拡大の影響でクラブ活動を休止していたため、ボランティアを受け入れることができなかった。

本庄市の行う「敬老お祝い」の商品の提供は、本庄市全域配達を行ったため、前年度より倍以上の商品を提供することができた。同じく、本庄市の行う「はにぼんチャレンジ」の商品提供はチラシの説明に不備があったこともあり、昨年度に比べ商品の提供が減少した。

(4) スワン深谷

今年度も新型コロナウイルス感染に留意しながら事業を行った。重点課題となっている入所者の受け入れは、1名迎えることができた。昨年度から取り組んでいる行政機関や支援学校などへの情報発信の成果が利用者増に結びつけられたと考える。また入所相談や問い合わせも増えている。その中で入所を受け入れるのにあたっては、事業所としての多様なニーズに応えられる柔軟さと対応力が、今後の入所者増に繋げるための必須と考える。退所者については2名あった(県外転居と施設利用一本化のため)。今年度の平均利用率は在籍(13名)に対して86.21%だった。

家庭で新型コロナウイルスに感染者がでてしまい通所停止となってしまった仲間に対して、在宅支援の整備が整わず在宅期間中、就労事業所としてのサービス提供を行うことができなかった。

自立支援では、仲間の将来について意見交換を行う中で、多く挙げられている「生活の場の基盤づくり」が大きな課題となっている。歩む会だけの資源では対応に限界があり、今後必要とされる状況に備えた計画相談や社会資源の利用と、仲間のニーズに寄り添える職員の専門性が求められている。

生産活動では、就労会計が前年比より80万円増収となった。仲間の工賃については減額することなく支給することができた。作業では今年度もイベント販売の中止や度重なる外販の自粛要請(休止)の影響により、コロナ前の生産量に戻らない状況下であったが、新たな取り組みとして、新商品(毎月5種類以上)を販売する取り組みや、各事業所限定で注文販売を始めたりと、売り上げ増に繋げる取り組みを行った。材料費や経費等の高騰は依

然続いており、段階的な値上げや取引先(納入先)の見直しなど検討を進めている。

就労を希望している仲間に対しては、就労支援センターとの連携を強化したことで、企業実習を行うことができた。就労には結び付けられなかったが、就労支援センターの就労支援員や実習先から具体的に課題を挙げていただいたことで、今後の事業所での支援に活かせるだけではなく、チャレンジした仲間にとっても就労に向けてモチベーションアップに繋がった。

研修では、全職員を対象に「スワン販売研修」を受講した。接客マナーはもとより、衛生管理を意識した販売研修を行うことで日々の姿を客観的に振り返ることだけではなく、自身の仕事に対しての向き合い方を再確認する場となった。また、虐待防止や人権擁護についても、Web等の資料を用いて研修を行い、感染症発生時等の対応については、コロナ感染時対応マニュアルの読み合わせを行い、確認を行った。職員からも予防に関する提案が積極的に上がるなど、感染予防に対する意識付けにもなった。

仲間の自治活動では、仲間の会役員が中心で活動が進められるよう、「役員会」を行い、事前に話し合う議題や決定事項など、内容が深められるよう工夫を行った。進行する力を養うことで達成感をつくり出し、仲間の会が活性化するよう職員間も連携を行い、仲間主導になるよう支援を行った。

(5) 歩む会美里ホーム

人員不足により職員体制が厳しい中で、6月に常勤職員1名、8月に非常勤職員1名採用することができた。職員体制の充足により、全日開所に繋げることができた。

美里ホーム(女子)では、利用日数が少ない入居者の方に対して利用日を増やせるよう、提案や検討を行った。目標であった入居利用率90%には届かず89%の稼働率となった。一方、針ヶ谷ホーム(男子)の利用率は、91%と目標を越えることができた。利用率も上がり収入増にも繋がった。

美里・針ヶ谷の職員間の情報共有化は、コロナ感染予防のため定期的な合同職員会議を実施することが難しかった。その為、月一回(第三月曜日)常勤職員会議は可能な限り開催し、情報共有と連携を図った。

開所して10年経過した針ヶ谷ホームは、老朽化に伴い修繕箇所が増えた。修繕した箇所は、リビング・照明・エアコンオーバーホール、トイレ・小便器センサー設置、キッチン・トイレ・居室の鍵交換を行った。

短期入所に関しては、安心して利用して頂けるよう職員配置を整えた。職員配置が整ったが、新型コロナウイルス感染拡大により3月～5月まで利用を一時休止した。6月には、緊急性のある仲間に対しては、緊急一時預かりとして受け入れを行った。2021年度の延べ利用人数は44名だった。

新型コロナウイルス感染拡大で地域社会との接点がなかなか作れない状況下であったが、散歩の際に近隣住民の方との交流を行うなど閉鎖的環境にならないよう支援を行った。10月に緊急事態宣言が解除したことで、短時間だが外出する機会を設定、なるべく人が少ない場所を選び活動を開始した。

健康管理では、入居者の相談や専門職との連携により進めることができた。10月より

美里ホーム利用者1名に対し、訪問看護ステーションによる相談支援を開始。入居者の相談場所を確保することが出来た。

加齢に伴う身体機能低下への対応は、ホーム周辺での散歩等で体力維持に務めた。また、訪問リハビリや訪問看護ステーションの相談支援が入ることで、社会的資源を活用し、専門職との連携を図った。また、深谷市の協力により、市内のグループホームに通う利用者を対象にしたコロナワクチン集団接種を行った。

美里・針ヶ谷の仲間の交流については、コロナ禍でも出来ることを模索し、8月に花火大会を企画した。(残念ながら雨により中止)その後は、集団での企画は控え、各ホーム内で誕生日会、お昼づくり、短時間の外出の機会を設け、コロナ禍でも可能な余暇活動を行った。

(6) 大きな樹

4月から緊急事態宣言が発令されたが、昨年度のような一斉休校はなく、通常通り開所することができた。今年度は新1年生を2名迎えるだけでなく、年度途中から高校生1名の入所もあり、在籍人数を17名に増やすことができた。しかし、感染症関連で利用の自粛等があり、定員(15名)に対する平均利用率は85.1%となった。新たな児童の受け入れに加え、人事異動による有資格職員の配置により、個別サポート加算の追加や強度行動障害支援加算をとることができた。

2月に支援学校内で新型コロナウイルスの感染が流行し、利用児童1名が新型コロナウイルス陽性者となった。周囲の感染状況を鑑み、保健所と相談して職員のPCR検査を行い、大きな樹は3日間臨時閉所とした。検査結果は職員全員陰性で、他利用児童含め、大きな樹内部での感染拡大は認められなかったため4日目より通常通り営業を再開した。閉所期間中は電話やメールなどによる在宅支援を行った。

新型コロナウイルスの感染の拡大が続くなか、埼玉県や本庄市の放課後等デイサービス連絡会のオンラインを活用した会議等に参加し、情報交換・共有の場を設けた。職員研修は以前より勤務時間の都合から非常勤職員の参加が難しいことが問題になっていたが、今年度から導入したサポートカレッジ研修動画を活用することで、職員会議時に全体で動画視聴研修を行うことができた。外部研修はオンラインでの研修の機会はあったが、うまく活用することができなかった。人材の確保については求人広告や求人サイトを利用するが、現状も採用につながっていない。有料求人誌やネット掲載を再度検討する必要がある。

小集団での分散活動を行う中で木工や裁縫、書字読字、金種(買い物)、ストレッチ等、普段は大人数では行いにくい細かい作業、巧緻性トレーニング等を新たに活動に取り組むことができた。しかし、緊急事態宣言の影響で公共施設利用や外出が制限されてしまい、上記のような屋内での活動割合が増えたため、児童父母からは外遊びを求める声もあった。安心して外遊びができるように、園庭に砂遊びや水遊びができるスペース、また日陰やベンチ等休憩できる場を設けた。活動の場を増やす意味でも大きな樹の園庭整備は今後の課題となった。

夏祭りやフリーマーケット、夕涼み会、運動会やバーベキュー大会等、大きな樹独自の行事を計画し事前準備や係り等、児童が役割をもって活動に参加できる機会を設けた。

フリーマーケットは販売するモノづくりから取り組み、当日は高等部の児童を中心に順番に店番を行い、みんなで買い物を楽しんだ。児童同士のやり取りを増やし、横のつながりを作る良い機会となった。地域活動・社会参加活動として深谷駅近くの「深谷ふっかちゃん横丁」でのお買い物イベントを行った。深谷市商工会を中心に地域の方にご協力いただき、店舗を貸し切りにする等感染症対策をとりながら地域交流の場を設けることができた。

(7) あゆみ相談支援センター

相談員が一人であるが故に、ダブルチェックがされていれば防げたであろうミスがあり、関係者に迷惑をかけることがあったが、相談支援センターを利用する方に対するサービス等利用計画の作成や、サービス事業者等との連絡調整は、滞りなく行うことができた。

相談支援連絡会には必ず出席して、他相談支援事業所や基幹相談支援センターとの横のつながりは十分にとれた。事業休止が決定した際にも、スムーズに利用者を引き受けていただけた。利用者には事業所変更の際に十分な説明を行ったうえで同意を得て引き継ぎを行い、3月31日をもって事業休止となった。

4. 年間行事について

4月		合同入所式【中止】⇒事業所ごとに開催
5月	22日	あゆみ作業所祭り【中止】⇒お楽しみ会
6月		スワン周年祭【延期】⇒12月
8月	6日	大きな樹旅行【中止】⇒夏祭り・夕涼み会
9月	10日	日帰り旅行【中止】
9月	17日	日帰り旅行【中止】
10月	23日	秋のフリーマーケット【中止】
11月	13日	福祉の店【中止】
12月	2日～4日	スワン周年祭&深谷ミニクッキーバザール
3月	5日	ねぎぼうず祭り【中止】⇒お楽しみ会